

きょう長良川競技場で日仏ラグビー

トップL選抜 最終調整

国内外のトップ選手が集う「バローグループ presents 日仏ラグビーチャリティマッチ 2019」FOR ALL



息びったりのパスワークを見せるトップリーグ選抜の選手ら＝長良川競技場

【復興】「岐阜新聞社、岐阜放送後援」は2日、長良川競技場で行われる。キックオフは午後2時。試合を控えた1日には、同競技場で両チームのキャプテンズラン（最終調整）があり、選手たちは芝の感覚を確かめるように汗を流した。

【関連記事23面に】

トップリーグ選抜は、パスワークを重点に連携を確認。接触プレーこそないが、試合さながらの素早い展開力を披露した。その後、スクラム、ラインアウトをはじめコンビプレーの確認を続け、予定を超える約40分間、体を動かした。対するフランスのクレルモンもパスなどの基本プレーを繰り返し、調整した。トップリーグ選抜のデュー・ディロンヘッドコーチは「チームとしての練習は短いが、うまく融合してきた。体の大きさ

をはじめタフな相手なので、激しい試合になるだろう」と展望した。

主将のSH日和佐篤は「ピッチの状態が良い」と笑顔。「ワールドカップ日本大会の年でもあるので、チャリティマッチといえど真剣勝負。速いテンポで展開したい」と力を込めた。代表入りに向け、アピールしたいCTB立川理道は「フィジカルを前面に押し出してくる外国勢と対戦できる良い機会。ボールの前の推進力、守備で体を張るなどシンブルな部分で勝りたい」と意気込んでいる。（富樫一平）